
オレの神様育成日記

マルボーロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オレの神様育成日記

【Nコード】

N7662L

【作者名】

マルボーロ

【あらすじ】

読書好きなだけの普通の高校生・小野建。

ある日、彼の乗ったバスが事故にあってしまう。

気がつくと、彼は異常なほどの満天の星空の下で倒れていた。

女の子を下敷きにして……。彼女はこの世界の“神”らしいのだが……？

ヒロイン最強設定。コメディです、一応。

オノケン、不思議の国に拉致られる（前書き）

どうも、たまです。初投稿です。

他のサイトでちょこちょこ書いていますが、駄文です。

どうか生暖かい目で見守ってやってください。

オノケン、不思議の国に拉致られる

また 消えた

わたしは できない？

助け ココに

来る 来て

わたし 世界

救う 誰？

ツルギ

タスケ キテ！！

第一章 ゴウ トウ ざ 異世界

遅くなってしまった……。でも！悔いはない！俺はやり遂
げた！

俺は、バスの外に向けていた意識を手元にある戦利品に向け満
げに拳を握り締めた。

外はすでに太陽の勤務時間を大幅にオーバーしているのだから当然
だが、もうどつぷりと夜の闇に浸かってしまっている。

俺は、小野健^{おのけん}。自分では、一般的高校生であると自負しているし、
周りの見解も俺と相違ないだろう普通の高校二年生だ。

しいて特徴をあげるとしたら、俺は本が好きだ。1カ月に30冊ほ
どの本を買いあさるほどに。特に、ファンタジーな展開を好む傾向
にあり、

そう言ったジャンルならば、絵本からマンガ、果ては翻訳すらされ
ていない海外の本も読みあさる。

当然、そんな生活を送るには金が必要であり、俺は万年金欠。日々
スーパーの広告とにらみ合っていたりする。

そんな俺が今日手に入れた至高の逸品。それは、1パック100円
という超絶セールの豚肉だった。

並みいる歴戦^{おはちゃん}の猛者をかいくぐり、途中髪の毛をふん掴まれながら
も手に入れた逸品だ。

俺はそれを万感の思いでそれを眺めながら実に満たされた思いで人
通りのまるでない坂道を登るバスに揺られていた。

そのときだった。

突然自分の周囲から音が消えた。と同時にフワリと自分の体が浮く
感覚。しかし、それは一瞬で、すぐに巻き起こる衝撃と轟音。

俺は、バスの窓からすっ飛ばされていた。そのとき、俺は見た。今
まで自分の乗っていたバスが目の前にある。それも、宙に浮いて。
正確には落下している。

事……………故？

あまりにも突然で、故にありえないほど冷静だった脳みそにその言葉だけが響いた。

そして、俺はこの世界から消えた。

なに読んでるの？

本

どんな本？

コレ

おもしろい？

うん

どんなお話？

それは……

生きてる？ 風？ どっ？

目覚めると目の前には満天の星空が広がっていた。

それはもうアンドロメダ大星雲が降ってくるのではないのかと錯覚を起こしてしまうほどの現実感のない美しさをもった夜空だ。

俺はそんなこの世のものとは思えないほどの光景のせいか、序々に回復してきた体の感覚にも頭が追いつけずにいた。

「むぎゅうううう……」

そのときだった。俺の背中がなんとも言えない苦悶の声を発したのは。

「もけ〜〜〜
……！」

さらに俺は自分が動いてもいないのに、体が動くという不思議体験をする！しかもなんかやわらけえ！

「む~~~~!! うが~~~~!!」

……とまあ冗談はこれくらいにしておいて、俺はどうやら誰かの
上に乗っちゃってしまっているらしい。…………て

「うおおおおお！ すいません！！」

俺は飛び起きた。もうそれこそ背筋と腹筋がブチ切れるんじゃないかという勢いで起きた。もちろん下に敷いている人に一切負担がかからないよう“きをつけ”の姿勢のまま。

「テテテ……なんなんだつうんですか、まったく」

ズツ
シャアアアアア！！

「すみません！！マジ、すみません！！別に調子こいてたわけじゃなくてです。ねなんか気がついてたら乗っかってたって言うかい。いやいやいや言い訳して訳じゃなくてマジなんすけど」

.....
L

「!？」
え？
いや……」

て、謝って、謝って、謝って、謝って、謝った。女の子が
なにか言った気がしたがそれでも謝った。

「ちょ、ちよっとおちつ」

謝って、謝って、謝って、謝って、そろそろ喉から血の味がしてき
て、まともに声を発することができなくなってきたころ。

「おいおいおいおいいいいいいい！！ちょ、その首にかかった
手はなんなんですか！？自分で絞めてんのになんでそんな死にそう
になれてんですか！？待って、ちょ、ホントマジ待ってくださいよ
！グロイ！グロイから！泡吹いちゃってますから！」

ようやく少女の声が耳に届いてきた。しかし、俺の意識はそこで
フェードアウト。短い人生だった。でも、目の前の女の子は許し
…てくれ……………たか……………な

く完く

「重いわあああああ！！！」

俺が現世から潔く黄泉の国に旅立とうとすると、何故か少女は俺
の抜けがらとなった体をものすごい勢いで振り出した。

「なにまとめてんですか！それでワタシにどうしろと！？願い下げ
じゃボケエエエエエ！！！」

俺の体は少女が容赦なく振り回すことによって、最早残像のようにぶれて見えている。そして首は今にもちぎれそうである。

どうやらこの少女俺が勝手に死んでしまうとご不満のようだ。自分で殺したいのか……なんて未恐ろしい。

と少女の将来のためにもさっさと成仏しようとしていた俺だったが、少女があまりにも振りすぎて逆に俺の体は血のめぐりがよくなってしまったのか

「……………ぶはああああ！？ああ、あああああ、ちよおおおお、ま
まままま、てててててて」

生き返りました

そしてそれと同時にフィードバックしてくる罪の痛み。主に首が折れそうに痛い。ていうか、何本か小骨が折れていそうである。まともにしやべることできない。しかも、少女は俺が黄泉がえったことに気づいていないのか未だに、俺を振り続けている。

「死ぬなあああああ！！立て、立つんだジョー！！」

「ち、ちががががが、ててててか、ふふ、るるる、いいいわ！
！」

いかん。このままでは、頭蓋骨からなんか内臓的なものが出る。

くっ、せっかく生き返ったのに死んでたまるか！

うおおおおお！！立て！立つんだ！！ケン！！俺は紙一重で無事である腕に意識を集中させると、ミキサーにかけられたような視界のなかでなんとか少女の腕を探り当て掴みかかった。

ワシッ！！

よし掴んだ！

途端にピタリと止まる少女の動き。もちろん俺の動きも止まる。しかし意識はまだしつかりせず、油断したらすぐさま途切れそうだった。俺はそうはなるまいと必死で意識にすぎるように少女の妙にやわらかい腕をより強く掴もうとした。

「% *¥@つつつっ！！！！！！！」

女の子の声にならない叫びが聞こえたような気がした。そして次の瞬間には衝撃。もろ人中だった。

「ぐはああああー！！」

俺はギョルギョルとキリモミ飛行をすると、そのまま何バウンドか地面をはねようやく停止した。

「な、なにをさらしてくれとんですかああああー！！おどれはああああー！！い、いきなりムムムム」

女の子がもはや悲鳴に近い声をあげていたが、はて、そんなに腕を触られたのがいやだったのか。

どんだけ純情なんだ、イスラエルでもまだマシだぞ。そんなツツコみをいれたかったが、生憎今俺は顔を割らんばかりの痛みと先ほどまでの脳内ミキサーで限界だった。

俺の意識は、今度は旅立ちコントをするヒマもなくブラックアウトしていった。

「よ、よりも寄ってワ、ワタシの！“神”の！ムムムネ」

女の子がなにかとんでもないこと言っていた気がしたが、もう俺

には聞き取ることができなかった。

オノケン、不思議の国に拉致られる（後書き）

いかがでしたでしょうか？

感想などを頂けるとたまは狂喜乱舞します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7662l/>

オレの神様育成日記

2010年10月11日08時10分発行